

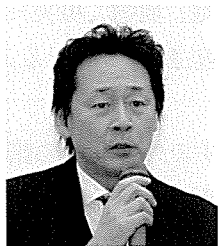
# NEWS

## 一般社団法人 愛知県産業廃棄物協会 第5回「安全大会」開催

2月2日（木）午後1時30分から名古屋国際会議場（名古屋市熱田区）において（一社）愛知県産業廃棄物協会 第5回「安全大会」が108名参加のもと開催されました。来賓として愛知労働局労働基準部安全課長 三好 了氏をお招きいたしました。

開会の辞を安全衛生委員 石川信夫氏が述べ、会長 永井良一氏は挨拶で、平成27年のデータでは、産業廃棄物業界の休業4日以上労働負傷者は1,280人と多く、度数率6.84、強度率0.24は他業種に比べ極めて高いため、労働災害撲滅に積極的に取り組んでいただきたい、と話されました。

次に安全衛生委員長 加山昌弘氏は挨拶の中で、（一社）広島資源循環協会副会長・安全衛生委員長 三谷哲也氏を紹介されました。三谷氏は広島で安全大会を開催するため、実施に向けて手順等の見学にお越しいただいたとのことでした。



来賓挨拶する  
愛知労働局 三好課長

来賓の挨拶として三好安全課長より、第12次労働災害防止推進計画重点業種の災害推移、及び愛知労働局管内の平成28年の労働災害の発生状況について説明がありました。産業廃棄物処理業における災害事例として、分別作業中にベルトコンベアに巻き込まれ骨折、解体現場の重機で塩ビパイプをはさんだところ割れて破片が飛び右目の裂傷、窒素タンク内部点検中酸素欠乏により死亡、が挙げられました。

講演会は「経営トップの安全衛生管理」と題して、中央労働災害防止協会中部安全衛生サービスセンター専門役・安全管理士・衛生管理士 竹平英敏氏が登壇されました。労働災害のメカニズムでは、安全衛生管理の欠陥から不安全な行動や不安全な状態に陥り、この二つが重なってしまうと災害が起こる割合は94.2%と被災率が高くなるそうです。ま



講師の中災防  
竹平専門役

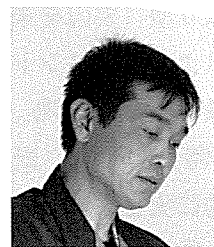
た労働災害と責任では、民事責任の賠償金が数千万円から億単位の金額になってしまった場合の企業側の負荷について述べました。安全衛生管理として、経営トップの安全任務として、安全管理の基本方針を明らかにすることが（労働安全衛生規則第3条の2）、被災の回避のひとつとして重要ではないかということでした。具体的には安全パトロールにおいて、“職場巡視”から“職場巡思”へ、見えないリスクを想定して見つけ出す、が安全衛生意識の向上につながるということでした。最後に経営トップとして災害が発生したら、根本原因（4Mの欠陥）まで踏み込み分析、根本的対策と水平展開、安全衛生教育の実施、と述べ

講演を締めくくりました。



事例発表する永一産商  
(株) 永井取締役

安全衛生の取組事例発表では2社から発表がありました。永一産商（株）取締役 永井弘晃氏は「安全衛生活動の取組み」と題して、安全保護具の着用、指差呼称、ISO14001の活用、防災訓練、雇入教育の徹底、資格取得の推進、安全防止対策他について述べました。（株）星野産商工場長 佐野和宏氏は「職場の安全衛生活動の取組み」と題して、事業所の年間安全衛生計画、出張所のリスクアセスメント



事例発表する(株)星  
野産商 佐野工場長

実施一覧表、リスク評価表、リスク改善事例を画像にて解説し、詳細な改善が行われたことを述べました。その後、安全宣言では安全衛生副委員長の平沼辰雄氏の号令のもと、安全宣言の一斉唱和が行われ、石川委員の閉会の辞にて会は終了しました。